

優しさー私たちの世界が切実に必要としているワクチン

(原文は英語)

アヌシャ・ピレイ (19 歳)

インド・チャッティスガル州

ライプール国立工科大学

「思いやりや優しさは弱さや絶望の印ではなく、力と決意の表れである」ハリール・ジブラーン

優しさとは、「友好的かつ寛大で思いやりのある性質」と辞書では定義されています。私にとって優しさとは、自分にとって大切な信条に則って生活をし、誠実に生きることです。優しさの根底には倫理や思いやり、共感があります。また優しさとは、自分にとって大切な人を扱うように自分自身を扱うことでもあります。なぜなら、自分自身に対する行動や考え方は、他者に対する姿勢を決定付けるからです。

今回の作文テーマを読んでとても考えさせられました。なぜかと言うと、今の時代において優しさは過小評価され、ほとんど論じられることがないからです。21 世紀の競争社会において、優しさは踏みにじられてきました。これは悲しいことです。なぜなら、優しさこそが世界を動かすと私は信じているからです。

10 の優しさを実践することで私の認識は大きく変わりました。どれもとても簡単にできる行いでありながら、私たちはそれをたびたび軽視していることに気づいたのです。それと同時に、これまで認識または感謝してこなかった、自分がこれまでに受けてきた数え切れないほどの優しさを思い出すことができました。バドミントンの試合で負け、チームメイトに顔向けできないと泣き崩れた私を慰めてくれた友だち。初めてサリーを着た時に、着崩れてしまった私のサリーを直してくれた見知らぬ女性。世の中にはまだ優しさが存在しているのに、私たちはそれを軽んじるようになってしまいました。

私たちの社会は、知性や美しさ、裕福さなどにより重きを置き、優しさや思いやり、他者への理解といった特質を軽視しがちです。インドをはじめとする多くの国の教育制度は成績のみを重視しています。学校や大学は、子どもたちが思慮深く思いやりのある大人へと育つ手助けをするのではなく、学問的な知識のみをテストし評価しています。そして成績を上げることに對する熱狂は、親たちによってさらに煽り立てられています。どうりでインドの一流大学の予選通過点がしばしば 99 点、時には 100 点に達するわけです！

これを解決する方法は、今の子どもたちが将来バランスの取れた豊かな大人になるよう、通常の学校のカリキュラムと価値教育を統合することです。幼い頃に学んだことはいつまでも若い心に刻まれ

ます。私たちこそ考え方を改める必要があるのです。人生が充実しているかどうかを測る尺度は、富や物質的な成功だけではありません。多くの場合、小さな親切や優しい言葉、何気ない行為が人生を一変させるのです。リーダーズ・ダイジェストに掲載されたある感動的な記事の中で、語り手はまったくの他人によって、長い間忘れていたある事件を思い出します。実はその「他人」は過去に自殺を図っていたのですが、語り手によって救われていたのです。それから 25 年後、彼は語り手の親切な行いに感謝しています。

少しペースを落とし、人生で本当に重要なことは何かを考え、自分の周りの善に注意を向けることで、私たちはより優しい社会を創ることができます。この世の中には間違っていることがたくさんありますが、その一方で多くの良いことや美しいことも存在しています。私たち一人ひとりの中にも善はあり、それを自覚することでより優しい社会になれるかもしれません。人は他人がどんな状況を抱えているのか実際には知ることができません。例えば、店員の態度が失礼だったり、不親切だったりするのは、具合が悪かったり、その人にとって大切な誰かが亡くなったせいかもしれません。ですから、私たちはいつも誰に対しても優しくあるよう努力すべきなのです。プラトンが言ったように、「優しくありなさい。あなたの出会う誰もが、より困難な戦いに挑んでいるのだから」。

優しさがあふれる社会を創るもう一つの手段は、テクノロジーに頼ることを減らし、基本的な人間の本能にもっと頼ることかもしれません。新世紀における驚異的な技術的進歩は、私たちの知っている世界を変えてしまいました。しかし私たち人間は大して変わっていません。私たちは、少しの優しさやほんのちょっとした真心をまだ必要としています。人とつながる機会が増えた一方で、皮肉にも他者との直接的な接触が減ってしまったことは、私たちの社会が優しさを切に必要としている理由の一つです。

優しさがあふれる社会を創るために、私たちは力を合わなくてははいけません。優しくすることで損をすることはありませんが、それによって人の人生を永久に変えることも可能です。アンネ・フランクの不朽の言葉にあるよう、「与えることで貧しくなった人はいまだかつて一人もいません」。